

令和5年度
気仙沼市生活支援体制整備事業
活動報告

社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会

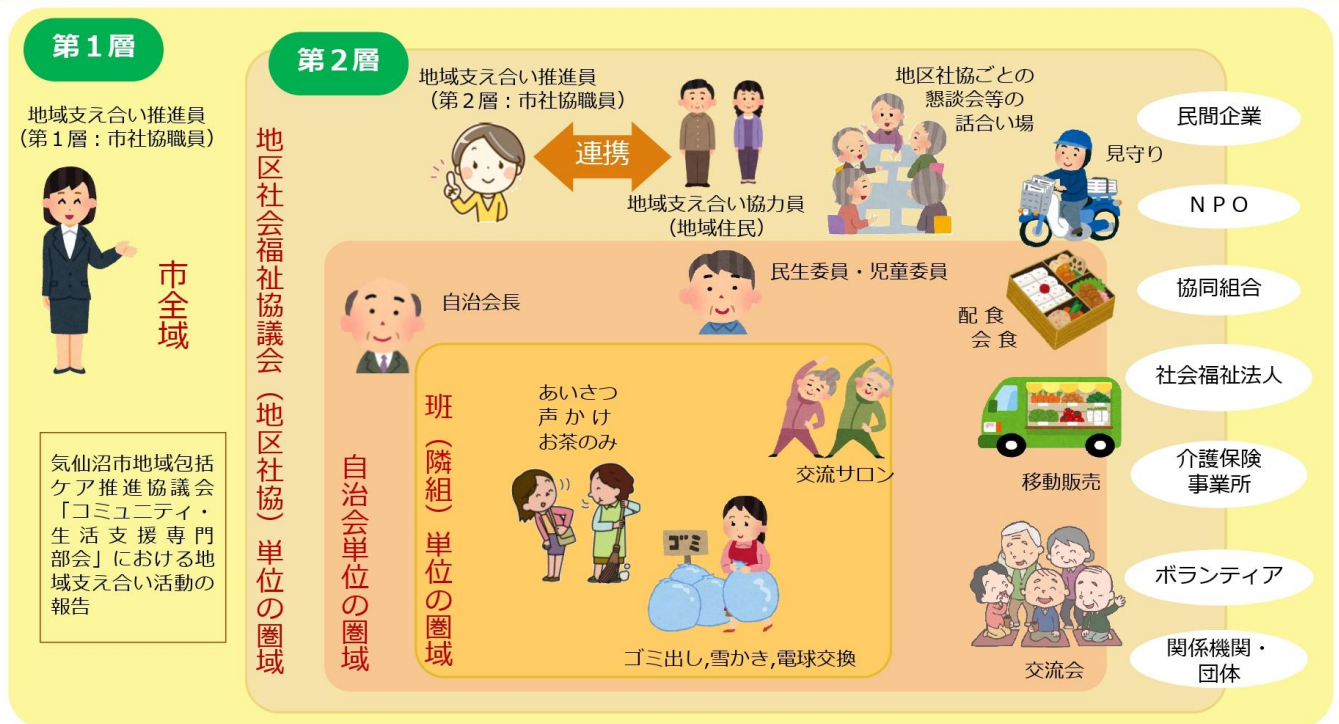
目 次

1	気仙沼市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・沿革	1
2	令和5年度地域支え合い推進員の活動報告 ～実績と成果～	
	(1) 第1層の取り組み	3
	(2) 第2層の取り組み	5
	16地区社協圏域における「住民主体の通いの場」の把握	5
	社会資源の見える化、啓発普及	6
	(3) 第2層協議体の開催状況と今後に向けての方向性	11
	(4) 地域支え合い協力員との連携状況	13
3	高齢介護課における取組みについて	14
4	今後に向けて	18

1 気仙沼市における生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み

本市では、平成29年4月より、生活支援体制整備事業を開始し、「地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）」を第1層（市全域を担当）に1名配置したほか、第2層については16地区社会福祉協議会圏域に「協議体」の設置を目指し、住民主体の活動を活発化するための支援や、地域全体で高齢者を支える体制づくりに取り組んできました。

生活支援体制整備事業イメージ図（気仙沼市の体制）



■地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）

事業は気仙沼市社会福祉協議会に委託し、第1層（市全域を担当）に1名地域支え合い推進員を配置、第2層については、令和3年度より16地区社協圏域を担当する9名の地域支え合い推進員を専任配置し、それぞれが地域に出向き、気にかけて関係性を育てている身近な支え合い活動（地域のお宝）さがしや地域の困り事の把握・支援に努めてきました。

なお、地域をきめ細やかに状況把握するために、地域支え合い協力員※を各地区に配置し、地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）と協力し、活動をしてきました。

※地域支え合い協力員とは

本市の特徴の一つとして、住民と共にこの事業を進める観点から、16地区社協より、地域をよく知る住民1～2名を「地域支え合い協力員」として推薦いただき、地域支え合い推進員と連携して地域づくりに取り組んでいます。

■協議体

協議体とは、地域に支え合いの輪を広げて行くために、地域住民同士で話し合う場です。本市においては、16 地区社協単位で地区懇談会を開催していることから、その場も活用しながら、地域の課題や解決に向けての方向性等話し合いを進めています。

協議体の主な役割として、

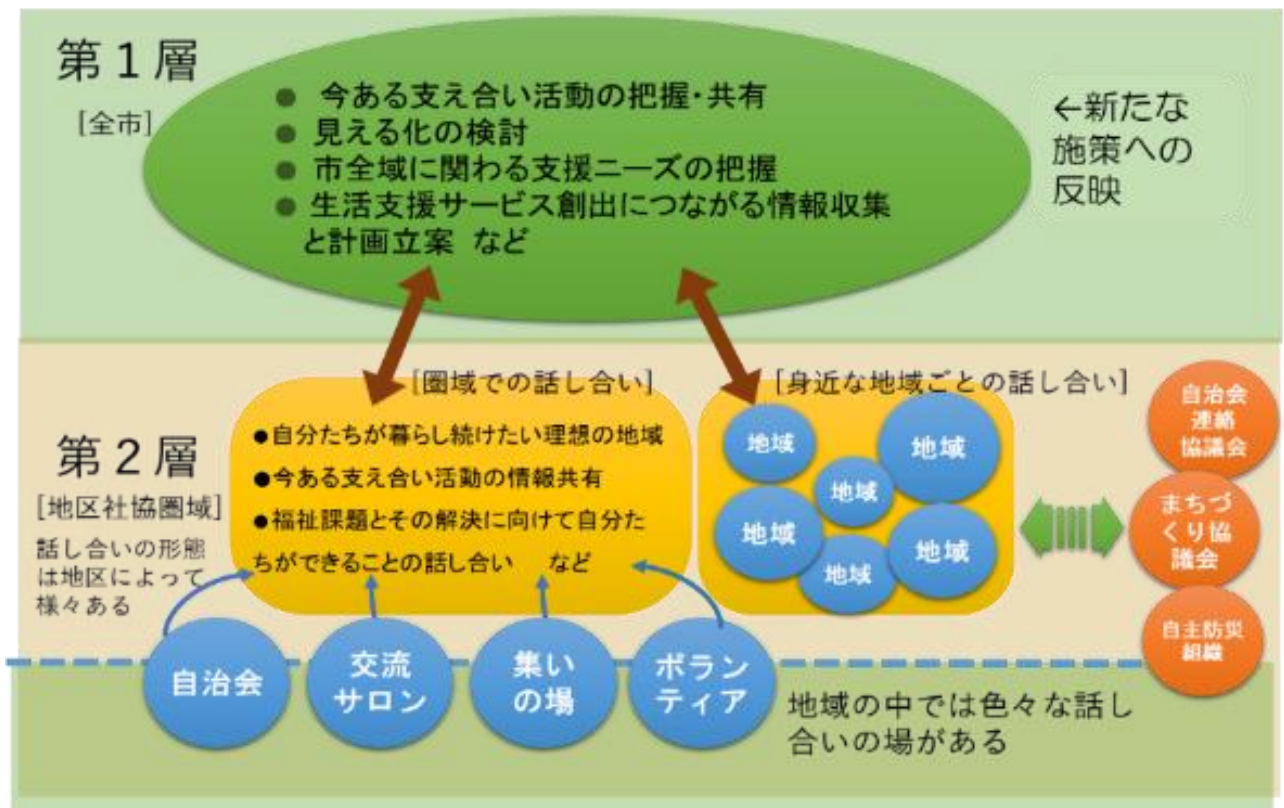
- (1) 地域における生活支援のニーズや既存の社会資源の情報交換、見える化の推進
- (2) 生活課題の解決に向けた取組の調整
- (3) 関係団体への働きかけ・連携構築としています。

なお、協議体の構成員・団体については、地域支え合い推進員・地区社会福祉協議会・民生委員児童委員・自治会連絡協議会・老人クラブ・ボランティア団体等となっております。

■第1層協議体と第2層協議体の関係

第2層協議体は、身近な地域での助け合いの仕組みを作るため、課題や資源の情報を集め、解決策を検討します。第1層協議体は、第2層で話し合われたことや市全体で考えていくべきことを整理し、第2層圏域において住民等が自主的に活動しやすいような仕組みを考へることや市に解決策等の提案をする役割をもっており、第1層と第2層の双方が連携しながら活動を行います。

本市では、「気仙沼市地域包括ケア推進協議会」のなかの「コミュニティ・生活支援専門部会」を第1層協議体と位置づけ、第2層の取組や好事例などの情報共有を図っています。



2 令和5年度地域支え合い推進員の活動報告 ～実績と成果～

(1) 第1層の取り組み

①地域包括ケア推進協議会専門部会（第1層協議体）への参加

令和6年1月16日開催の気仙沼市地域包括ケア推進協議会コミュニティ・生活支援専門部会（生活支援体制整備事業第1層協議体）において、第1部として「地域支え合いフォーラム」を開催し、地域での見守り活動や支え合い活動について事例紹介を行いました。

お互いさまの支え合いで 自分らしく暮らし続ける地域 をみんなで作ろう



気仙沼市生活支援体制整備事業

令和5年度地域支え合いフォーラム

〔令和6年1月16日〕
ワン・テン 大ホール

地域のつながりの大切さについて再認識し、新たな住民参加の介護予防や支え合いの取り組みなど、住民主体の元気な地域づくりを進めることを目的に企画したもので、当日はおよそ110名の方が参加されました。



はじめに「支え合いを広げる地域づくり」というテーマで、東北子ども福祉専門学院 副学院長の**大坂純先生**より講演をいただきました。高齢化と人口減少に加え、コロナ禍における地域でつながる機会の減少などにより社会的孤立が課題となっているとしたうえで、「お互いさまの支え合いで自分らしく暮らし続ける地域をみんなで作っていきましょう」と参加者に向けて力強いメッセージをいただきました。



その後、上地区社会福祉協議会と大沢キッチン（唐桑町大沢地区）の2団体より、住民主体による支え合い活動の取り組みについて実践発表と大坂先生からの講評をいただきました。

最後に市高齢介護課よりフレイル予防サポーター養成事業についての情報提供と参加者全員で海潮音体操を実践してフォーラムを終了しました。

【上地区社会福祉協議会】

地域のスーパー閉店をきっかけに移動販売車への声かけから、買い物に合わせた集う場づくりを継続しているという実践事例の報告



【大沢キッチン】

ご近所の高齢者へのおすそ分をきっかけに始まった活動が、自治会を巻き込んだ活動になった経緯を報告



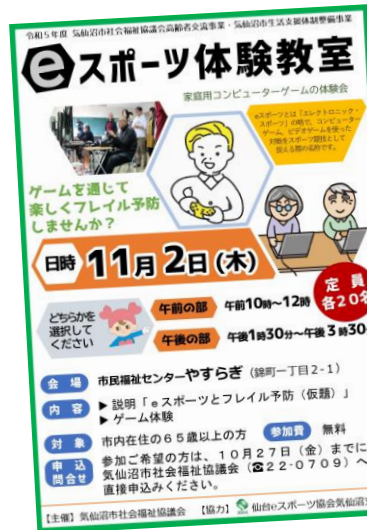
多くの参加者から、これまでの自分たちの活動を誇り、また、これからの活動への後押しになったという声が聞かれました。

今後も様々な機会を捉え、地域で行われている支え合いの活動を把握し、住民主体による地域づくりを一緒に進めます。



②市社協事業との連携事業「eスポーツ体験教室」の開催

高齢者が新しいスポーツ形態である「eスポーツ」を、気軽に楽しく取り組むことのできる機会の提供を通じて、健康で自立した生活を送るためのきっかけづくりとともに、地域の通いの場等の活性化やコミュニティーの向上を推進することを目的に、令和5年11月2日の午前及び午後にそれぞれ開催しました。



当日は延べ20名が参加し、パズルゲームや格闘ゲーム、カーレースなどの家庭用ゲーム機での体験のほか、ゲーミングPCと呼ばれる本格的なパソコンゲームの体験を行ないました。

ほとんどの参加者がゲームに触れるのが初めてでしたが、操作に戸惑いながらも「eスポーツ」を通して、楽しく交流を深めることができました。

③第2層地域支え合い推進員との連携

第1層地域支え合い推進員と第2層地域支え合い推進員については、「地域支え合い推進員連絡会議」を開催し、事業進捗状況の確認や今後の取り組み方針についての確認をしています。また、地域支え合い推進員連絡会議に県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局（宮城県社協）職員の参加をいただき、他市町の活動状況や先行事例の紹介、活動の展開に向けたヒントなど、実践的な助言を受けています。



(2) 第2層の取り組み

○16地区社協圏域における「住民主体の通いの場」の把握

住民主体の活動を実施している地域及び団体への訪問活動により、「住民主体の通いの場」を把握し、他の団体への情報提供に努めました。

種別 団体数 地区	住民主体の 通いの場	老人クラブ	交流サロン
	97	11	48
西地区	15		3
上地区	4		4
中央地区	1		1
魚町地区	5		4
南町・柏崎地区	2		
南地区	1		
鹿折地区	12	3	6
松岩地区	2		10
新月地区	11	7	3
階上地区	4		3
大島地区	4	1	
面瀬地区	5		7
唐桑地区	22		2
津谷地区	2		1
小泉地区	3		
大谷地区	4		4

※「住民主体で通いの場」「老人クラブ」「市の交流サロン」に分類し、16地区社協圏域別に集計し、月1回以上活動している団体のみ計上。(令和6年3月時点)

《気仙沼市内の16地区社会福祉協議会圏域》



○社会資源の見える化、啓発普及

①パネル展の開催と話し合いの場でのパネル展示

支え合いの地域づくりの推進に向け、生活支援体制整備事業説明と各地区の活動を紹介するパネル展示を市内2会場で行ったほか、圏域ごとの懇談会（話し合いの場）会場に展示するなど、市民の皆様は活動を身近に感じていただく機会となりました。

場 所	展示期間ほか
新月公民館	令和5年10月17日～10月22日 公民館まつり会場での展示ほか
鹿折公民館	令和5年10月23日～10月30日
松岩公民館	令和5年10月27日～12月6日 公民館まつり会場での展示ほか
大島公民館	令和5年11月17日～11月20日 公民館まつり会場での展示
唐桑保健福祉センター 燦さん館	令和5年12月2日～12月4日 唐桑福祉アート展での展示
市役所ワン・テン庁舎 情報プラザ	令和5年12月12日～12月22日 パネル展示と地域活動紹介の展示動画を実施
市役所ワン・テン庁舎 大ホール	令和6年1月16日 地域支え合いフォーラム会場に展示
気仙沼中央公民館	令和6年2月5日～2月9日
市民福祉センターやすらぎ	令和6年2月9日～2月29日

(各展示場所のようす)



新月公民館



鹿折公民館



松岩公民館



大島公民館



唐桑保健福祉センター燦さん館



気仙沼中央公民館



市民福祉センターやすらぎ



市役所ワン・テン庁舎情報プラザ

②広報紙 気仙沼市社協だよりへの「地域のお宝紹介」

地域とつながりながら、役割を持って元気に暮らす高齢者の方や、地域活動団体の皆さんを「社協だより」の表紙や「地域のお宝コーナー」で紹介しました。



③広報紙 気仙沼市生活支援体制整備事業「けせんぬま支え合いだより」作成

生活支援体制整備事業の説明と、各地区の多様な支え合いやつながりづくりの取組み、高齢者の社会参加活動、地域支え合い推進員の紹介を掲載した広報紙を作成しました。

【配付先】第1層協議体構成団体、地区社協会長、自治会長・振興会長、民生委員・児童委員、ボランティア団体、公民館、包括支援センター、関係機関・団体等



③脳トレ・手指の運動に！フレイル予防と支え合い

☆つながるきっかけクラフト☆ ～ 六角形ペン立て、鶴のポチ袋 ～

長引くコロナ禍により弱くなってしまった地域とのつながりを取り戻すため、活動団体や個人で取り組むきっかけとして「つながるきっかけクラフト」づくりを昨年度に続き取り入れました。

脳トレ・頭と手指の運動につながるほか、作った作品を訪問のきっかけとしてご近所さんや友人におすそ分けができればと考え作成メニューを提案し、自治会をはじめサロンや市内のグループ等に周知しました。参加者が作り方を習得し、それぞれ地元を持ち帰り、高齢者サロンなどに取り入れていただくという広がりにつながっています。



④レンジで簡単！「バランスよく食べよう」男の料理教室

「健康長寿のまちづくりのための生活実態中間調査 2022」の結果をもとに、栄養面の状況が低い3地区を選定し、65歳以上の男性を対象にした料理教室を開催しました。

令和5年度 生活支援体制整備事業

レンジで簡単！



「バランスよく食べよう」男の料理教室



気仙沼市では、東京都長寿医療センターの協力を得て「健康長寿のまちづくりのための生活実態中間調査2022」の結果を公表しています。生活支援体制整備事業では、この調査結果を参考に地区社会福祉協議会と共催し、65歳以上の男性を対象に料理教室を開催しました。

楽しい食事は意欲を高め、気持ちを前向きにし、生活の質を高める効果があります。

南町・柏崎地区社会福祉協議会

参加者より「今まで地域活動に参加する機会がなかったのですが、今回の体験から集いに参加する自信ができました。「また参加したいです。」「料理教室後、散歩しながら一緒に帰り、男同志でお茶のみをしました。」「良い経験でした。ボランティア活動がまた楽しくなりました。企画から一緒に考えたいです。」と、お話を頂きました。意欲とつながりの輪が広がっています。



大島地区社会福祉協議会



(ふだん料理しない男性が)「こんなに苦労して毎日お仕度している妻や、高齢の母に感謝しかないです。」自分を支えてくれている方々への感謝の気持ちを共有しました。大島地区社会福祉協議会会長は、「料理教室に限らず、高齢男性の集いの場が継続していけるように、今後も地区住民のため一緒に取り組んでいきたい」と熱い気持ちをお話してくださいました。

面瀬地区社会福祉協議会

面瀬地区社会福祉協議会会長より、「調査結果から、来年度も料理教室を検討したい。地区ボランティアさん今日はありがとうございます。」と感謝のお話がありました。

料理教室のほか、おすそ分けなど食を通して交流の機会と拡大、ふるさとの味を伝えるなど多様なつながりが生まれます。



(3) 第2層協議体の開催状況と今後に向けての方向性

協議体・住民懇談会については、地区主催及び共催含め、延べ7地区社協圏域で実施し、意見交換等が行われました。

◆住民懇談会開催状況

No.	地区等	開催日	テーマ・内容	参加者
1	津谷地区支え合い 推進会議 (協議体)	4月14日	地域課題等の共有と解決に向けての話し合い(継続)	29人
		6月13日		22人
		8月30日		24人
		令和6年 3月1日	支え合いの仕組みづくりに向けた意見交換	29人
2	上地区社協 (住民懇談会)	10月29日	上地区自主防災組織立ち上げによる意見交換会 (市危機管理課危機管理監を招き質疑応答など)	40人
3	大島地区社協 (住民懇談会)	12月1日	・つながり支え合う地域づくり ・身近な支え合い活動の紹介	33人
4	津谷地区社協 (住民懇談会)	12月8日	・津谷地区支え合い推進会議の取り組み状況について 意見交換と情報交換 ・地域の現状、支え合いの地域づくりに向けての話し 合い ※地区社協主催事業	19人
		12月10日		14人
		12月12日		21人
		12月13日		24人
		12月21日		24人
		令和6年 2月8日		21人
5	西地区社協 (地区内の集いの 場実施団体情報 交換会)	12月14日	・「健康長寿のまちづくりのための生活実態中間調査 2022」アンケート結果 ・地区内集いの場の現状について意見交換 ・消費者トラブルを防ぐための情報共有	40人
6	唐桑地区社協 (住民懇談会)	2月18日	・みんなで目指す「支え合う地域づくり」 ～唐桑のいまを知ろう ・「健康長寿のまちづくりのための生活実態中間調査 2022」から見える唐桑地区の状況について ・つながり支え合う地域づくりについて ・唐桑地区内の身近な支え合い活動や集う場の紹介	82人
7	新月地区社協	2月20日	・「健康長寿のまちづくりのための生活実態中間調査 2022」結果概要 ・調査の結果を参考にふだんの暮らしについて考え てみよう ・グループワーク	25人

(各会場のようす)



津谷地区支え合い推進会議（協議体）



西地区社協



上地区社協



新月地区社協



大島地区社協



唐桑地区社協



津谷地区社協

(4) 地域支え合い協力員との連携状況

地域支え合い協力員とは

本市の特徴の一つとして、住民と共にこの事業を進める観点から、16 地区社協より、地域をよく知る住民1～2名を「地域支え合い協力員」として推薦いただき、地域支え合い推進員と連携して地域づくりに取り組んでいます。

【地域支え合い協力員活動の紹介】

地域支え合い推進員の活動に協力いただいています。

《活動内容》

情報提供

・地域の通いの場や支え合い活動の情報提供

地域とのパイプ役

・地域の役員などへ、地域支え合い推進員の紹介・同行訪問

参加・伝える

・地域の交流会等への参加をとおした状況把握

・通いの場や交流会、日常生活の中で、支え合いの大切さを住民へ伝える。

・協議体及び住民懇談会開催に向けての話し合いと参加

情報交換

・地域支え合い推進員との情報共有、情報交換（地域の状況や課題、課題解決に向けて）など

※活動内容は、地区の状況により変わります。

【地域支え合い協力員の配置状況】 10地区社協 16名

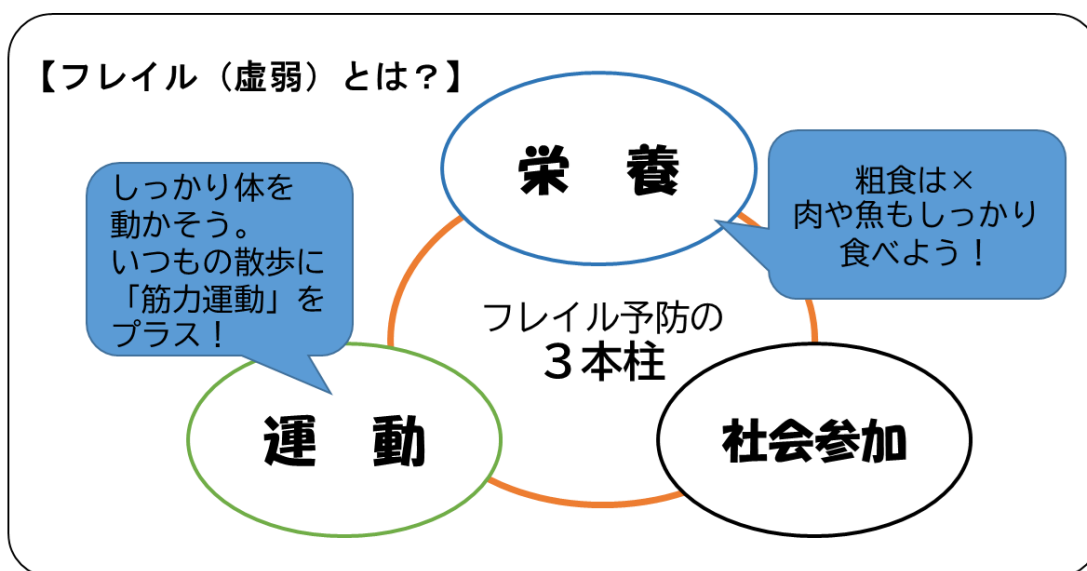
- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| ・西地区 2名 | ・上地区 2名 | ・魚町地区 2名 | ・鹿折地区 1名 |
| ・松岩地区 2名 | ・大島地区 1名 | ・面瀬地区 1名 | ・小泉地区 1名 |
| ・津谷地区 2名 | ・大谷地区 2名 | | |

3 高齢介護課における取組みについて

(1) フレイル予防サポーター活動事業について

市では、「高齢期のフレイル予防対策」とし、令和元年度より「フレイル予防サポーター養成講座」を開催しており、受講した方は市民サポーターとして、地域で活動をしています。

市社協に所属する地域支え合い推進員も、「フレイル予防サポーター」の一員として活動し、地域で「フレイル予防講座」を開催するお手伝いをしています。



○地域の「健康課題」を関係者で共有することから始めます

「個人」だけの取り組みでは、健康づくりや介護予防の取り組みは継続できないことから、市では「地域全体」でフレイル予防に取り組むことを推進しています。

フレイル予防講座を開催するにあたり、地域の関係者と、「どのような講座にするか。」「講座終了後、どのようなことを地域で取り組むか。」などを協議しており、地域支え合い推進員も会議に出席しています。

【小々汐地区の様子】



【東中才一・西中才地区の様子】



○フレイル予防講座の内容について

講座の内容は、運動講座（3回）と栄養講座（2回）の2つのメニューがあり、教材を活用しながら、市民サポーターが講話・実技を行います。

運動講座の内容

- ・準備運動
- ・コーディネーション運動
- ・海潮音体操（※）

栄養講座の内容

- ・フレイルチェックシートの活用
- ・講話「まんべんなく何でも食べよう」
「筋肉を増やす食事」「骨を強くする食事」

（※）^{みしおね}海潮音体操とは、東京都健康長寿医療センター研究所と市民が作成した「ご当地介護予防体操」であり、市で啓発普及しているもの。

○各地区で開催したフレイル予防講座の様子

○森前いきいきサロン・森前林シニアクラブ



○西みなと自治会



○崎浜福寿会



○鹿折ウォーキングクラブ



○みなと自治会



○浪板2区自治会



○大浦自治会



○駅前住宅自治会



○青葉ヶ丘自治会



○大谷前浜・天ヶ沢自治会



【フレイル予防サポーターによるフレイル予防講座の実施状況】

実施団体数	実施回数	延参加者数
15団体	36回	516人

(2) 人材育成に関する研修について

今年度は「健康長寿のための生活実態中間調査2022」の結果について、東京都健康長寿医療センター研究所 清野 諭氏を講師として研修会を開催。

新型コロナウイルス感染症流行により、気仙沼市の高齢者の現状や健康課題などがどのように変化しているか学びました。地域の現状を把握し、今後の事業に反映させていきたいと思いをします。

【研修内容】

開催日	出席者	主な内容
7月31日	9人	「健康長寿のための生活実態中間調査 2022」の結果について

(3) 社会参加章受章について

上地区社会福祉協議会

上地区社会福祉協議会では「地域福祉の向上」のみならず毎年、住民懇談会や関係団体情報交換会を通じて、地域の課題解決に向けて、フレイル予防や認知症予防などの健康づくりを積極的に地域全体で推進しています。また「地区社会福祉協議会」が主ではありますが、地域内の各関係団体（保健推進員）が協働し活動しています。

その他に地域内にあった唯一のスーパーが令和2年に閉店した際は、地域の有志が移動販売車を誘致し、地区社会福祉協議会が移動販売日に合わせた、「青空喫茶店」を月1回開始しました。茶話会を通じた地域の見守り活動の取組や、地域支援事業「生活支援体制整備事業」の第2層協議体としても位置づけられており、地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）と協力しながら事業を実施しています。

以上の活動が評価され、内閣府より表彰を受けました。令和5年12月21日には気仙沼保健福祉事務所で賞状と盾の授与が行われました。



4 今後に向けて

長引くコロナ禍により、弱くなってしまった地域における人と人とのつながりの希薄化が進みました。そのため地域活動が自粛・中止等により停滞し、コミュニケーションの場が減少したことから、高齢者のフレイルや認知症の急激な進行が懸念もされています。

このような中、地域で交流する場の活動再開や支え合いの地域づくりに向けて、第2層推進員9名が地域の関係者や住民と丁寧に向き合いながら、地域活動の後方支援や、活動に困っている際には他地区の好事例を情報提供するなど、「支え合い活動」を地域全体に広げるための取り組みを進めてします。併せて、令和5年度も「フレイル対策」の啓発普及のための「フレイル予防講座」に協力しながら、コロナ禍で地域活動が休止している団体の交流活動再開のきっかけづくりを支援してきました。

しかしながら、地域によっては話し合いの機会を持たずにいる地区もあることから、「自分たちが地域でどのように暮らしていきたいか」「どのような支え合いがあれば地域で暮らしていけるか」など、「地域の目指す姿」をできるだけ多くの人たちで考えられるよう、話し合いの場づくりに向けた働きかけをさらに進めていきます。

令和6年度は、地域で集う場の開催支援に努めながら、日常生活圏域ごとに話し合いの場（協議体）の設置を進め、地域の生活課題解決に向けた小地域における「自助」「互助」による住民主体の支えあい活動の立ち上げに向けて、関係機関と協働しながら伴走型で支援してまいります。

引き続き、地域支え合い推進員や関係機関、そして地域のみなさんと共に話し合いをしながら、この生活支援体制整備事業を共に進めてまいります。

令和5年度 気仙沼市生活支援体制整備事業 活動報告

発行日 令和6年3月

作成 社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会
気仙沼市保健福祉部高齢介護課